

子育てのスタイルは 発達にどう影響 するのか

乳幼児1364人を
7年間にわたり追跡調査
米国NICHD

CRNは
「社会による子育て」を
研究しています



S Y M P O S I U M

R E P O R T



CRN国際シンポジウム2000
21世紀の子育てを考える
の
報告





米国 NICHD 早期保育研究の 成果について

サラ・フリードマン(NICHD - 国立小児保健・人間発達研究所)

I はじめに

このたび、こうして皆様にお話しすることができ、大変嬉しく思っております。また、日本の保育問題に関心のある方々と意見を交わし、会場の皆様からも教わる機会をいただけることを、とても楽しみにしております。本日は、米国で行われました保育研究について報告をさせていただきます。米国と日本の事情は異なりますので、私の発表についても批判的にお聞きいただけたらと思います。日本の家庭や保育者にも当てはまる研究結果とそうでないものがあるということをご理解いただければと考えております。

本日、私は、NICHD 乳幼児保育研究ネットワークを代表してまいりました。このネットワークは全米 24 の病院で 1991 年に生まれた、さまざまな背景をもつ 1364 人の子どもを長期的に調査している研究者チームです。この研究は子どもの発達に及ぼす保育の影響を評価するために計画されたもので、多くのデータを収集したことにより、今回、ご報告できることとなった次第です。研究調査員は 10 カ所のデータ収集地ならびに NICHD に関連している、いずれも著名な発達心理学者であり、さまざまな概念的、方法論的な専門知識が集結されています。

発表を始めるにあたり、まず最初に、保育を受けている子どもたちには家族がいることを思い起こしていただきたいと思ひます。保

育を論ずる人々は、時としてこれを忘れがちです。このことを念頭に置く必要があります。

すなわち

- ・ 子どもに保育を受けさせることは、育児の一形態である
- ・ 家族の特徴や育児から、母親と保育を受けている子どもの関係を予知することができる
- ・ 家族の特徴や育児から、保育を受けている子どもの認知的並びに社会的発達を予知することができる

のです。なお、「家族の特徴や育児」と一口に申し上げましたが、この二つは関連はありますが、同じではありません。家族の特徴には所得や婚姻状況、母親の学歴などの人口統計学的特徴と、母親の心理的充足度や態度などの心理学的特徴が含まれます。また、育児というのは、子育て環境の選択、母親のセンシティブティ*や対応、あるいは認知的刺激を与えるといった子育てに伴う行動やプロセスをさします。

* 子どもの心を読み取る力、細やかな心や感受性のこと

II 親が保育を選択する

子どもに保育を受けさせることは、育児の一形態ととらえることができます。なぜならば、親が保育を選択するからです。親に限りない選択肢が与えられているわけではありませんが、子どもが何歳になったら保育を受けさせる